

航空科学技術ロードマップ(役割分担編) 第40回航空科学技術委員会における質疑応答の反映状況について

委員の方々の航空科学技術ロードマップに関連したご意見	ご意見への回答と、航空科学技術ロードマップへの反映状況
ロードマップの「官」は産総研など、JAXA以外の公的研究機関との連携も含まれているか。(鐘尾委員)	p7.「2. 産学官の各部門の役割分担の考え方」において、官をJAXAのみならず、行政機関及び公的研究機関と定義している。また、ロードマップ検討委員会には電子航法研究所からも参加いただいております、密接に連携している。
連携では横のつながりがキーになるが、大型試験設備の情報提供はJAXA航空本部でできているか。(鐘尾委員)	大型試験設備はJAXAのウェブサイトなどで広報している。本ロードマップを通じて、更に企業等に大型試験設備について知っていただけることを期待したい。
データ収集分析の責任・役割は困難だと思う。企業としての機密情報として扱う部分がある。最終的には世の中の航空業界の前進のために国境を超えたデータ共有も必要があると思うが、そこはどのような整理をしていくべきだと考えているか。(鈴木委員)	p20.「4. 2 安全で効率的、低コストかつ環境(騒音・CO2等)に配慮した航空輸送システムにおいて必要な役割分担」において、運航データの蓄積やビッグデータ解析システムの役割分担にも触れており、運航データの蓄積は官の役割とされている。 <u>ご指摘のあった各企業の機密情報の取り扱いについては、取り扱いに十分注意が必要な点を追記した。</u>
データ分析や、Artificial Intelligenceにより学習する力といったものを加えると、相当の額のリソースが必要になると思われるが、その負担の仕方に何か考え方はあるか。(鈴木委員)	今回の議論の中では費用分担のあり方まで踏み込んでいないが、今後必要な課題であることを認識するためにも、その旨を、p25「7. おわりに」に追記した。
航空産業の先端技術を支える上では、学術的にもハイレベルな活躍をしていることを世界に対してアピールする必要があるが、それは産官学の役割分担に書かれた文言の中に暗黙の知で含まれているか。(松島委員)	p24「5. あるべき姿の実現を支える共通基盤技術における役割分担」に、産官と協力した学の役割として学術研究の高度化を追記した。 <u>また、学術研究等の基盤技術強化が、日本技術の国際プレゼンスの向上にも寄与する点についても追記した。</u>
(JAXAは)人材育成における産官学連携を、これまでどのような形でされてきたのか。また、これまでできていないことを踏まえてどう発展させようと考えているか。(山本委員)	JAXAでは、これまで連携大学院における学生や、企業からの出向の受け入れ等を実施。今後も人材育成はさらに深めるべきとの認識から、大学との研究講座の共同運営や、CFDツールの学生教育への提供も進めている。
(JAXAは)ロードマップに記載されている「国際的な人材」「プロジェクト・マネジメントができる人材」といった視点から人材育成の枠組みを広げていく、という理解でよいか。(山本委員)	「国際的な人材」については、p8「公的研究機関の果たすべき役割」として、機関間における国際協力の枠組み構築が求められており、JAXAでも各国の公的研究機関同士の連携枠組みを今年度から立ち上げ、若手研究者の国際交流を深めるという活動を進める。 「プロジェクトマネジメントができる人材」の育成にあたっては、p25にも記載の通り、「飛行実証を伴う開発プロジェクトの継続的な実施」が求められており、JAXAも飛行実証プロジェクトを立ち上げることで人材育成にも貢献したい。